

第 5 区

定数 20 名 候補者 20 名

候補者氏名（受付順）

1. 氏名
 2. 生年月日
 3. 主たる勤務地
 4. 経歴
 5. 抱負
 6. 現職/新任/再任
 - 7~9. 直近 4 年間（2018/01/16 から 2021/11/10）までの実績
（7. Surgery Today* 8. Surgical Case Reports* 9. 医療安全管理体制への協力）
- ※出版社から提供されたデータをもとに掲載しております。

1. 鈴木 修司 2. 1965/9/27
3. 東京医科大学茨城医療センター 消化器外科
4. 1990 年筑波大学医学専門学群卒業 1990 年東京女子医科大学消化器外科入局 2012 年同科 講師 2014 年東京医科大学茨城医療センター消化器外科 准教授 2015 年 6 月同科 主任教授
5. 医師不足地域において、高難度手術を実践し、癌治療における医療の均てん化を推進してまいります。また、救急医療体制の維持発展を推進し、地域医療を支える基幹病院としての役割を継続いたします。
6. 現職
7. 投稿 2 編（共著含む）、査読 3 編
8. 投稿 1 編（共著含む）、査読 0 編
9. 1 回

1. 伊東 浩次 2. 1965/1/8
3. 土浦協同病院
4. 1990 年東京医科歯科大学医学部卒。同大第一外科、肝胆膵外科教室を経て、2009 年より土浦協同病院外科部長。2021 年より副院長
5. 地域の基幹病院としての立場から、外科勤務医の環境改善、若手外科医の育成に貢献するよう尽力してまいります。
6. 現職
7. 投稿 0 編（共著含む）、査読 1 編
8. 投稿 1 編（共著含む）、査読 0 編
9. 0 回

1. 増本 幸二 2. 1964/2/1
3. 筑波大学医学医療系 小児外科
4. 1991 九州大学医学部卒 1991 九州大学小児外科および関連病院で研修 2002 オランダ エラスムス大学 留学 2004 九州大学小児外科講師 2009 福岡大学病院 准教授 2011 現職
5. 小児医療を含む、外科診療の進歩や発達に加え、手技の安全性向上にも努めていきたいと思っています。また、次世代を担う若手外科医の育成もしっかり行うよう努力したいと考えています。どうぞよろしく申し上げます。
6. 現職
7. 投稿 4 編（共著含む）、査読 0 編
8. 投稿 2 編（共著含む）、査読 2 編
9. 0 回

1. 吉野 一郎 2. 1962/4/21
3. 千葉大学大学院医学研究院 呼吸器病態外科学
4. 1987 年に九州大学を卒業後、同消化器・総合外科を経て、2007 年より千葉大学に赴任しました。本会では、臨床研究委員会、国際委員会、教育委員会、倫理委員会、英文誌編集委員会にて活動してまいりました。
5. 外科学の発展、外科医療の充実、外科医の生きがいのある働き方の確立のために尽力していきたいと存じております。
6. 現職
7. 投稿 14 編（共著含む）、査読 4 編
8. 投稿 3 編（共著含む）、査読 0 編
9. 0 回

1. 松宮 護郎 2. 1961/9/26
3. 千葉大学大学院医学研究院心臓血管外科学
4. 1994 年大阪大学大学院博士課程（第一外科）卒業、ロマリンダ大学リサーチフェロー、クリーブランドクリニッククリニカルフェローを経て 1999 年大阪大学心臓血管外科、2009 年より現職
5. 外科医の未来が明るいものであり続け、多くの若い医師に本会に入ってきてもらえるよう、本会の運営に貢献すべく努力させていただきたいと思います。
6. 現職
7. 投稿 1 編（共著含む）、査読 7 編
8. 投稿 0 編（共著含む）、査読 0 編
9. 0 回

1. 小田 竜也 2. 1964/1/16
3. 筑波大学 医学医療系 消化器外科
4. S63 筑波大医学群卒、H11 国立がんセンター東病院肝胆膵外科、H18 文科省 学術調査官、H24 筑波大医学医療系教授、H25 筑波大附属病院手術部長、R3 筑波大臨床医学域長、筑波大附属病院副院長
5. 新規技術を取り入れる勇氣、既存技術を維持する頑なさ、どちらにも孤独が伴います。その孤独を支えるのは、科学研究に基づく Fact と患者さんへの深い優しさです。若い男女外科医にその気概を伝えていきます。
6. 現職
7. 投稿 4 編（共著含む）、査読 2 編
8. 投稿 4 編（共著含む）、査読 4 編
9. 0 回

1. 平松 祐司 2. 1961/6/21
3. 筑波大学医学医療系
4. 1986年筑波大卒。米国ペンシルバニア大学留学を経て1998年筑波大学講師、2006年准教授、2013年教授、2018年副病院長。日本心臓血管外科学会等の評議員、ベトナムチョーライ病院客員教授
5. 新専門医制度の下、外科医の働き方改革と地位向上を達成しつつ、持続性のある次世代育成を実現するための基盤創りに尽力したい。若者を外科領域に惹きつける魅力ある卒前医学教育システムを構築したい。
6. 現職
7. 投稿1編（共著含む）、査読6編
8. 投稿0編（共著含む）、査読7編
9. 1回

1. 松原 久裕 2. 1960/2/8
3. 千葉大学 大学院医学研究院 先端応用外科
4. 1984年千葉大学医学部卒、2007年千葉大学先端応用外科学教授、2021年千葉大学大学院医学研究院長・医学部長。2008年より代議員、2012年より理事。第121回日本外科学会定期学術集會会頭。
5. 理事として外科医を取り巻く諸問題に取り組み、外科学発展のため邁進し、皆様のご支援により第121回学術集會会頭を拝命、盛会にて終了しました。これまでの経験を礎に本学会の発展に今後も尽力して参ります。
6. 現職
7. 投稿3編（共著含む）、査読2編
8. 投稿4編（共著含む）、査読0編
9. 0回

1. 秋葉 直志 2. 1955/8/30
3. 東京慈恵会医科大学附属柏病院
4. 1981年東京慈恵会医科大学卒業。2001年同大呼吸器外科部長。2012年同大柏病院外科部長。2013年同大外科教授。2014年日本外科学会代議員。2018年同大理事。柏病院院長。現在に至る。
5. 低侵襲手術を始めとする外科医療の質の向上、医療安全の取組み、新興感染症に対する取組み、2024年第8次医療計画を見据えた病院を取巻く環境の変化を見据えて、外科学の進歩と日本外科学会の発展に尽力します。
6. 現職
7. 投稿4編（共著含む）、査読0編
8. 投稿2編（共著含む）、査読0編
9. 0回

1. 原 尚人 2. 1959/9/6
3. 筑波大学 医学医療系 乳腺甲状腺内分泌外科
4. 1984年3月筑波大学医学専門学群卒業 2008年6月一筑波大学乳腺甲状腺内分泌外科教授 2014年4月—2018年3月筑波大学附属病院副病院長 2021年6月一般社団法人日本内分泌外科学会理事長
5. 常に地域にも目を向け、良質な若手外科医を育成したいと思えます。外科6サブスペシャリティ領域の一つである日本内分泌外科学会理事長として、日本外科学会のご指導のもと、両学会の発展に貢献したく存じます。
6. 現職
7. 投稿0編（共著含む）、査読3編
8. 投稿1編（共著含む）、査読4編
9. 0回

1. 佐藤 幸夫 2. 1963/11/5
3. 筑波大学医学医療系呼吸器外科学
4. 1988年筑波大学医学専門学群卒業 1999年筑波大学呼吸器外科講師 2002年自治医科大学呼吸器外科講師 2008年自治医科大学呼吸器外科准教授 2009年筑波大学呼吸器外科教授
5. 日本の外科学を更に発展させその魅力を発信します。また、待遇改善を通じて若手外科医を増やし、外科医の地位向上に向けて尽力いたします。
6. 現職
7. 投稿5編（共著含む）、査読5編
8. 投稿2編（共著含む）、査読8編
9. 0回

1. 大塚 将之 2. 1964/2/10
3. 千葉大学大学院医学研究院 臓器制御外科学
4. 昭和63年3月 千葉大学医学部卒業 平成8年3月 千葉大学大学院医学研究科博士課程修了 平成28年10月 千葉大学大学院医学研究院 臓器制御外科学 教授 令和2年4月 日本外科学会 理事
5. 次世代を担う外科医の育成、特に高い見識と技術をもち、社会に信頼される外科医の育成と外科学の進歩の追求を通して日本外科学会の発展の一助を担えるよう全力を尽くしたいと考えています。
6. 現職
7. 投稿1編（共著含む）、査読9編
8. 投稿5編（共著含む）、査読20編
9. 0回

1. 早野 康一 2. 1973/3/12
3. 千葉大学大学院医学研究院先端応用外科
4. 2000年千葉大学医学部卒業 2006年千葉大学大学院博士課程修了 2015年千葉大学助教医学部附属病院(食道・胃腸外科)2018年 千葉大学講師大学院医学研究院(先端応用外科学)
5. 日常の外科臨床を高いクオリティで行いながら、世界に発信できる良い研究も行き、さらに次代を指導し育てることで、外科学の発展に貢献に尽力したいと考えています。
6. 新任
7. 投稿3編(共著含む), 査読0編
8. 投稿2編(共著含む), 査読0編
9. 0回

1. 高屋敷 史 2. 1970/8/26
3. 千葉大学臓器制御外科学
4. 1996年 千葉大学医学部卒, 同第一外科入局 2004年 Washington Univ.(Missouri, USA) 2007年 千葉大学臓器制御外科学 助教 2017年 同 講師(現職)
5. 本学会活動を通して、これまで培われてきた優れた外科治療の継承に加えて、新たな技術の導入による新規治療の開発にも尽力することにより、今後の外科学の発展に微力ながら貢献していきたいと存じます。
6. 現職
7. 投稿1編(共著含む), 査読0編
8. 投稿3編(共著含む), 査読0編
9. 0回

1. 幸田 圭史 2. 1959/4/11
3. 帝京大学ちば総合医療センター
4. 1984年 千葉大学医学部卒業, 附属病院第一外科入局 1988-90年 米国留学 1998年 筑波大学外科講師 2000年 千葉大学外科講師 2006年 帝京大学ちば総合医療センター外科教授
5. Surgical Case Reports 誌の editor として引き続き良質の雑誌となるよう努力をするとともに、専門としている下部消化管外科を中心として臨床外科学および研究面での発展に努力いたします。
6. 現職
7. 投稿5編(共著含む), 査読6編
8. 投稿0編(共著含む), 査読4編
9. 1回

1. 久保木 知 2. 1974/2/8
3. 千葉大学臓器制御外科
4. 1998年4月 千葉大学臓器制御外科入局 2005年4月 University of Cincinnati 留学 2009年11月 千葉大学臓器制御外科助教 2017年4月 同教室講師 現在に至る。
5. 患者様に寄り添った医療を心掛けるのはもちろんのこと、臨床研究・基礎研究に邁進し、新しい知見を得るとともに、さらなる手術手技の向上にも努めることで、本学会の発展と外科医療の進歩に貢献したいと思っております。
6. 現職
7. 投稿1編(共著含む), 査読0編
8. 投稿3編(共著含む), 査読0編
9. 0回

1. 大平 学 2. 1971/4/14
3. 千葉大学大学院医学研究院先端応用外科学
4. 平成8年千葉大学医学部卒. 同年, 千葉大学第2外科入局. 平成20年1月, 千葉大学医学部附属病院食道胃腸外科助教. 平成27年4月, 千葉大学医学部先端応用外科学講師
5. 外科医減少の傾向に歯止めをかけるべく、学生、研修医が外科医を目指したいと思うような外科の魅力の発信に努めます。また外科勤務医の労働環境改善に寄与できるよう微力ながら尽力いたします。
6. 現職
7. 投稿2編(共著含む), 査読0編
8. 投稿1編(共著含む), 査読0編
9. 0回

1. 長谷川博俊 2. 1962/3/13
3. 東京歯科大学市川総合病院外科
4. 1987年 慶應義塾大学医学部卒業 1997年 英国バーミンガム大学外科 2005年 慶應義塾大学外科専任講師 2012年 慶應義塾大学外科准教授 2020年 東京歯科大学外科教授
5. 私はこれまで主に消化器、大腸領域において臨床、研究、教育活動を行って参りました。また本学会においては2020年より国際委員会委員を拝命しております。今後も本学会の運営、発展に尽力したいと存じます。
6. 新任
7. 投稿2編(共著含む), 査読4編
8. 投稿1編(共著含む), 査読1編
9. 0回

1. 岡住 慎一 2. 1959/1/6
3. 東邦大学医療センター佐倉病院
4. 1984年千葉大学医学部卒。同年千葉大学第二外科入局。1995年助手。2002年講師。2003～4 ミュンヘン工科大学病院留学。2005年助教授。2008年東邦大学佐倉病院外科教授。2012年 副院長
5. 外科学の方向性として低侵襲化と根治性の追求を理念とし、消化器癌治療（特に食道癌）、炎症性腸疾患、高度肥満症治療に重点をおいて取り組むとともに、次世代の内視鏡・ロボット外科を担う外科医の育成を進めます。
6. 現職
7. 投稿2編（共著含む）、査読1編
8. 投稿0編（共著含む）、査読10編
9. 1回

1. 菱木 知郎 2. 1968/8/1
3. 千葉大学医学部附属病院
4. 千葉大学卒業後千葉大学小児外科学教室に入局し研鑽を積み、2020年1月に前任地の国立成育医療研究センターから千葉大学大学院医学研究院教授に就任いたしました。小児外科全般、小児がんを専門としています。
5. 私はこれまで日本小児外科学会において庶務委員会・専門医認定委員会ほかの委員長をつとめ、学会活動に精力的に関わってまいりました。これらの経験を活かして本学会の発展に微力ながら貢献できれば幸いに存じます。
6. 新任
7. 投稿0編（共著含む）、査読3編
8. 投稿0編（共著含む）、査読9編
9. 0回